

令和6年度 第2回宮前区地域包括ケアシステムネットワーク会議 会議録

【会議の概要】

開催日時		令和6年11月22日（金）13時00分から14時30分まで
開催場所		宮前区役所4階 大会議室
出席者の氏名	委 員 （順不同・敬称略）	本橋 隆子 （聖マリアンナ医科大学） 行形 毅 （宮前区医師会） 宮下 大志 （宮前区PTA協議会） 川田 和子 （宮前区全町内・自治会連合会） 安田 潤子 （宮前区地域包括支援センター連絡会議） 木村 恵実 （宮前区地域自立支援協議会） 江田 孝二 （株式会社東急ストア）
	欠席委員	小平 隆雄 （田園調布学園大学） 江木 幸代 （宮前区社会福祉協議会） 山本 良子 （宮前区民生委員児童委員協議会）
	関係職員	小泉 幸弘 （宮前区役所副区長） 大和田 美和子 （地域みまもり支援センター所長） 津田 多佳子 （地域みまもり支援センター副所長） 西村 正道 （地域みまもり支援センター担当部長） 小林 聡美 （地域支援課長） 富田 幸子 （地域支援課 地区支援第1係長） 箱島 徳子 （地域支援課 地区支援第2係長） 中島 雄一 （地域支援課 地域サポート係長） 長田 弘子 （児童家庭課長） 堺 靖志 （高齢・障害課長） 山崎 隆史 （保護課長） 瀧澤 浩子 （衛生課長） 富永 恵美子 （保育所等・地域連携担当課長代理） 野平 夕子 （学校・地域連携担当課長） 戒田 洋一郎 （宮前区役所危機管理担当課長代理） 小西 洋平 （宮前区役所まちづくり推進部企画課長代理） 佐々木 龍一 （宮前区役所まちづくり推進部地域振興課長）
	事務局	村岡 美枝子 （地域ケア推進課長） 飯島 達也 （地域ケア推進課 企画調整係長） 山本 浩平 （地域ケア推進課） 栗野 智史 （地域ケア推進課）
	オブザーバー	高相 強志 （川崎市宮前区社会福祉協議会 事務局長）
傍聴人の数		0名
議事 （公開）		（1）委員からの活動紹介 （2）地域包括ケアシステムの推進に向けた取組（令和6年7月～10月） （資料1-1、1-2） （3）その他

配布資料	資料１－１ 地域包括ケアシステムネットワーク会議委員名簿 資料１－２ チームオレンジ及び土橋カフェについて 宮前区地域包括ケアシステムネットワーク会議委員名簿 宮前区地域包括ケアシステムネットワーク会議関係者名簿 令和６年度 第２回宮前区地域包括ケアシステムネットワーク会議席次表 川崎市宮前区地域包括ケアシステムネットワーク会議開催運営等要綱
------	---

【議事要旨】

発言者等	発言要旨
開会	事務局から開会の挨拶 事務局から会議公開、会議録の作成と公開について説明、傍聴人０名 小平委員、江木委員、山本委員欠席
委員・出席者の紹介等	委員及び出席者による自己紹介 事務局から宮前区地域包括ケアシステムネットワーク会議の趣旨及び目的について説明
事務局	〔議事１〕委員からの活動紹介について 今回は行形委員に説明を行っていただきます。よろしくお願いします。
行形委員	みやまへの会（宮前区在宅療養推進協議会）の中で、医療・介護・福祉等の会を代表する方と話をし、今年度は災害に対する対応を宮前区ではどうしていくかという話をすることとなりました。 １回目の会議では発災時何に困ったか、女性のトイレ、子どもの食事（ミルクなど）の問題、水回りの状況、何日で生活ができるようになった等、実際に被災した方の現場の声を聞かせていただきました。また地震、風水害だけでなく、2019年から新型コロナウイルスのパンデミックという、長年現在の仕事をしている中で初めての状況に見舞われましたが、宮前区で被災した事を考える際に災害を一つと捉えず、いくつかに分けて考えた方が良いのではないかと、いう事を震災の現場の声を聞いたうえで、参加者で話し合いました。 ２回目は発災した際に救助に入っているDMAT（災害派遣医療チーム）や各都道府県などの自治体スタッフが何日で現場に到達できたかなど、被災した側ではなく助けに入る方々の動きなどについて、３師会で実際に対応に行かれた方から生の声を聞かせていただき、色々なケースを想定して災害訓練を行うことが重要だという話になりました。 ３回目は市の上下水道局に来ていただき、現状で被災した場合、誰がどこで何をすべきか、トイレの準備は何日分用意しておいたら良いのか、トイレは男女で分けるべきか、排泄物は相当なゴミになるので大と小を分ける必要があるのかなどの話を聞きました。また上下水道局だけでなく保存食を販売しているメーカーの方にどれ位の人数分を何日分備蓄しておいた方が良いかという事なども聞くことができました。 これまで７～９月で災害について話し合ってきましたが、次回はまとめとして１２月の実施を予定しています。各団体が地域住民とのネットワークを持っていますが、病院であれば自院の患者さん以外とのつながりをどのように作っていくのか、地震など予期できないものと、風水害などある程度予期できるも

	のとを分けて考えながら、今後地域住民とどのように関わりを持っていくかなどの議論を予定しています。 また、現在も新型コロナウイルスのパンデミックがありますが、医療機関として様々な助言をさせていただく予定です。ここで申し上げますと、新型コロナウイルスのワクチンは現在日本で5種類あり、1つは組換えタンパク型といって、これまでアレルギーが出るなどでmRNAワクチンが打てなかった人が唯一打てるワクチンなのですが、インフルエンザワクチンや組換えタンパク型は抗体ができるまで14日程度かかるので流行する前に打つ必要があります。mRNAワクチンは3～4日で抗体のピークが来るので、これから第12波が想定されますが、流行し始めてから打っても問題ないですよ。インフルエンザも流行し始めていますが、こちらは既に打っておく必要がありますよという話を、生活支援を行う会の方にお伝えします。そこから地域住民の方々にお伝えしていただく活動をしていきます。以上です。
事務局	ありがとうございました。それではただいまの行形委員の活動紹介についてご質問、ご意見等ありましたらお願いします。
川田委員	ありがとうございました。私も自主防災組織の活動をしていますが、その中で皆さんから出てくる不安の声として医療に関することがあります。薬も切らしてはいけない方がいる中で、ある程度備えておきましょうと言われても、いつ地震があるか分からず薬を持たずに避難所に行くことが想定されます。避難所に医師等が来てくれるのかなど、医療体制などについて住民に分かるようにしていただけるとありがたいと思います。 自主防災組織は町内会・自治会から発足しており、各団体で防災訓練を行っています。避難所開設訓練をとおして対応について会議で話し合いをしていますが、今行形委員のお話を伺い、多職種の方がいて知らない方々もいらっしゃるんだと改めて思いました。 市の自主防災組織連絡協議会で12月に会議が予定されています。組織の上の方々はまずは自身が所属している組織の方の安否確認や、全員は避難所には入れず自主避難所がかなりできてくる事が想定されるため、その調整をやっていただく必要があります。そのため避難所に来た方に手上げしていただいて避難所を運営するのですが、事前知識があればスムーズにいくだろうという考えがあり、まだ案の段階なのですが市内全区で防災知識を得ている人以外を対象にサポーター養成のようなものを実施したいと考えています。可能であれば来年度から実施したいと考えているのですが、それに先駆けて宮前区で1月に実施します。宮前区の危機管理担当と市の危機管理本部とやるのですが、今回あまり時間がないため、地域ケア推進課などに知識を得たい人たちに声掛けをしてもらい、1月28日に1日をとおして4コマの講座を行います。また2月1日に向丘中学校で実施する区の総合防災訓練見学後に振り返りをして修了証を渡すということになります。 今回初回ということもあり様々な課題が出てくると思いますので、それをクリアしていきながら来年度には全区に広げていきたいと思っていますので、参加したい方がいらっしゃいましたら参加いただけたら理解が広がるのではないかと思います。

行形委員	みやまえの会の2回目の会議後にDMATで入った先生から、宮前区は参加人数も多く熱意がすごいと評価いただきました。川田委員のような方がリーダーとなって宮前区が引っ張っていただいています、依頼等があれば是非我々も可能な限り協力しますので、一緒にやらせていただきたいと思います。ありがとうございます。
川田委員	宮前区は色々な面で進んでいると思います。ただ宮前区だけ良ければ良いという事ではなく、取組を他の区へ広げていければそれぞれの区が考えて下さってももう少し充実していけるのではないかと思います。 それから今回女性の話が出ましたが、今まで会議のテーブルにつくのが男性ばかりで男性視点でしか話せなかったと思います。これは3年前から実施していますが、12月8日に宮前区の女性の方に集まっていたいて問題点などを共有していく取組を予定していますので、女性で参加したい方は危機管理担当へ申し込んでいただきたいと思います。
行形委員	女性の話については、1回目の会議で被災者側の困りごととして川田委員がおっしゃったように、男性が会議の主流になっているが故に女性用トイレが多くなければならない中で十分ではなかったという話もありました。女性からいただいた意見を集約して区に投げられるような窓口を設けるか、災害だけでなくこのネットワーク会議でも女性の部会を立ち上げるなどしていけば良いのではと思うのですが、区の方いかがでしょうか。
事務局	まず危機管理担当から何かありますか。
戒田危機管理担当課長代理	女性へのアプローチという点で申しますと、今川田委員がおっしゃったとおり自主防災組織連絡協議会で自主的な講座という形で女性の課題などを知っていただく活動があります。それから我々から行う地域へのアプローチとしては、区内小中学校25の避難所に設置される避難所運営会議で女性の視点を踏まえながら避難所運営の議論をしていただいています。ここ何年かで女性への配慮の話が膨らんできていますので、女性だけが利用する棟を区分けしていくとか、お手洗い、更衣室、授乳室等の話は地域で進んでいる所でございます。女性だけで議論というところまでは至っていませんが、順々に女性への配慮については進んでいるものと危機管理担当としては認識しています。以上です。
行形委員	我々が今年度災害対策として取り組んできた中で質問が出ていたのですが、避難所開設が完了しているかどのようにして知ることができるのでしょうか。
戒田危機管理担当課長代理	地震で申しますと市内のいずれかで震度6弱が観測された時点で、市全域で職員に自動参集となる他、地域の方にも避難所開設に動いていただくこととなっています。地震では各避難所を担当する区役所職員がおり、その職員が避難所に到着した段階で区の災害対策本部に連絡がきて、システム登録をしていくとともに、ホームページ・アプリでお知らせしていく流れとなっています。 風水害につきましてもホームページ・アプリで避難所開設については周知をしています。基本的には高齢者等避難が発出された時点では避難所の開設ができています。
行形委員	分かりました。その情報をいち早く市民に知らせる必要がありますので、その点をお考えいただければと思います。

川田委員	今 17 時で音楽がなっている防災無線があり、風水害の場合は高齢者や障害者の事を考えないといけませんし、強くない地震でも状況により避難所を立ち上げることがあります。ただ、なかなか防災無線が聞こえづらかったりしますが、全域に聞こえるようにするのは難しいとは思いますが、光化学スモッグなどで防災無線が流れていると思いますが、日頃から窓を開けてでも聞いていただければと思います。地震の場合はそのようなお知らせをすることは難しいですね。
行形委員	防災無線の放送網も地震で断線などにより機能するか分からないという話も、みやまの会に出ていました。また、震度 3～4 位の揺れの地震でも災害がないとは判断できないので、必ずしも震度で判断しないで、部分的に災害があった所の避難所を最初に開設し、被害の状況に応じて開設箇所を徐々に広げていくなどのシステムを作ってもらっても良いのではないかという話も出ました。区の方々の負担が大きいのは理解していますが一応お伝えしておきます。
川田委員	先日の大雨では 25 ある避難所のうち 22 開設されましたが、他の区は全然開設していない所もありました。宮前区も本当に 22 か所全て開設する必要があるかなどこれから詰めていかなければいけないと思います。発災後行政職員が参集して体制を整えるまでは行政を頼ることはできないので、それまでに衛生面などで知識があり指導できる人がいれば良いと思うので、サポーター養成をしていきたいと考えています。 自分たちの事は自分たちでやらなければいけないんですが、住民と医療がなかなかつながらないんです。どのようにするかなど医療の面での情報を提供していただければ皆さんの安心につながると思います。
行形委員	医療の点で言うと一概にどのようにするという事はできなくて、例えば宮前区に医師会加盟の施設 120 の会員がいますが、半分近くは市外に住んでおり、その人たちは、発災時東京や横浜などから向かってくるので、まず近くに住んでいて自院を開設できる人にやれる事をやってもらい、遠くに住んでいる人が集まってきた際に区役所や休日急患診療所に集まってもらって対応するという方法をとれないかという検討はしていますが、東京の人は来れるけど、横浜の人は来れないなど想定できないような話もあるので、まとまり切れないという現状はありますが考えてはいます。
川田委員	分からなければそちら任せになってしまうので、そういった状況も情報としていただければと思います。その結果情報があれば自分たちで考えていかなければいけないという事になるので。 今地域防災力を強くしようとなっていて、例えばある人が高齢だからもうダメだという事ではなく、高齢者も自分自身をまずは守ることが大切で、その後に互助があるので、そういった人たちほど薬が必要になってくると思うんですね。そういった方に緊急時の医療体制の現状を知ってもらう方法があればと思っています。
行形委員	分かりました。ありがとうございます。
事務局	ありがとうございます。本橋委員、今のお話を聞いて何か関連することなどありますか。

本橋委員	災害がおきたからといって大きな病院に集まってしまう事が一番怖いところで、やはり今かかりつけ医やかかりつけ薬剤師などが大切です。また先ほど薬の話もありましたが、おくすり手帳があれば避難所に来て医師等が回ってきたときでも処方薬が分かるんですが、普段飲んでいるものが分からないと処方できません。特に東日本地震の時にそのような問題が非常に多かったんですけど、普段飲む薬を覚えているようで非常に難しく覚えていないので、先ほど川田委員がおっしゃっていたとおり、いかに自分を守っていくかという点では、日常生活の中で自分の体や薬に興味を持って準備ができるかだと思います。 一時私たちも3者協定の時に、おくすり手帳やかかりつけ医について啓発していましたが、健康や医療に対して区民の方は非常に興味があるので、そういった事を普及していくことは必要なのかなと思っています。
事務局	宮下委員はP T Aとして何かありますか。
宮下委員	少し脱線してしまうかもしれませんが、先週川崎市子ども会議U 1 8に行ってきました。小学校4年生くらいから1 8歳以下の子どもたちが、その年に自分たちが興味のある事を話し合うという事で今年は防災でした。今回僕が行ったのは、大人に自分たちの意見を聞いてもらって議論する会だったのですが、子どもたちが言ったのが「災害時には男性女性高齢者など色々な人がいるけど子どももいる」「子どもは体を動かさないと壊れてしまう」「学びをしておくことで子どもの心の安定につながる」などとても大事なメッセージだったなと思いました。避難所開設などで対応する方もいるので、早速P T Aでも情報を共有して何か考えられたら良いなと話をしていました。 色々な面で災害時は想定をしておかなければならないので、イメージ力を働かせてこのような会議で話ができることが非常に素敵だなと思って話を聞いていました。
安田委員	ビオラ宮崎では「みんなの防災」という会をやっています。これはB C Pを作らなければいけないという事をきっかけに、介護保険の事業所などに集ってもらって、どうしていくかを話し合う会を重ねてきているんですけど、その中で避難所が入りきれないので、自宅が安全であれば自宅避難をしていきたいと思いますという事があり、食料、水の備蓄、トイレの問題を利用者に伝えていこうと話しています。 先ほど本橋委員から話がありましたが、薬の問題については介護保険を受けている人であれば、包括やケアマネージャーが事あるごとに、おくすり手帳を確認しているので、何年か前より手帳保有率は高まっていると思います。ですので、介護保険を使っている方は良いけど、使っていない人や、それより前の段階で自分は大丈夫だと思っている方が心配だなと感じました。
事務局	ありがとうございます。木村委員、何かありますか。
木村委員	自立支援協議会から参加しておりますが、宮下委員から子どもの切り口から意識していかなければいけないというお話がありました。障害者という切り口も非常に大事でして、協議会の中でも、地域の障害を持った方やその家族が災害時により困難な状況に置かれやすいという事で、協議会だけでなく、それ以外の障害者支援の現場でも災害に向けた勉強会などが行われています。障害の特性上、発信が上手くできないとか、身体・精神上的の問題だったりを解決する

	には自主防災というか、自助や互助などの助け合い、医療とうまくつながるために日頃からご近所さんとなつなっておきましょうという事を相談支援の立場で利用者さんなどに話をさせていただいています。今回皆様方のお話を聞いて非常に参考になったので、協議会等で研修や勉強会がある際は医療面で行形先生やその他の方々にご相談できるのではないかと思います。
事務局	ありがとうございます。江田委員なにかありますか。
江田委員	防災の観点からすると、私たちは食の部分の防災・安全という事になります。8月にあった地震では、まとめ買いなど急激に需要が高まり、商品が不足した事がありました。お客様に話を聞いても日々の食品のローリングストックがなかなかできていないという事が今回の地震で痛感しました。コロナ禍でもそうでしたけど、ローリングストックの啓発活動を少しずつ行っている最中ですが、行政の告知物を掲示するとか、ハザードマップを貼っておくとお客様も見ていたり、質問がくるなど関心があると思います。特にフレル鷺沼は、駅前にありますので、是非媒体等あれば協力しますので、お声かけいただきたいと思います。 あと、販売体制について災害時とか停電発生時などレジが使えない時の体制の訓練などしっかりやって地域のインフラとして機能するように取り組んでいます。あとは行政と連携して支援できるものは支援していくなどやっていきたいと思います。以上です。
事務局	ありがとうございました。他に何かございますか。行形委員よろしいでしょうか。
行形委員	行政が動けない間の自助などについて、教育の場で災害の議論をやったという宮下委員のお話しの取組は素晴らしいと思いました。 長年委員をさせていただいて初めて気が付いたんですけど、地域包括ケアシステムの概念って元々高齢者だけが対象だったんです。ただ福田市長が子どもを巻き込んで考えていて、当初はとんでもない事を言っているなと思ったんですけど、今はそこそこ当たっているなと。災害対応を中心に考えると地域包括ケアシステムが考えやすくなるのかなと。今まで我々は地域包括ケアシステムの裏側に災害対応があると思っていましたが、そうではなくコアにあるのが災害対応で、これは子供も大人も関係してくるんです。その上に地域包括ケアシステムが被さっているのかなと。長年僕が思っていた理想が、今回自分たちで災害対応について取り組んできて変わってきたなと感じました。
川田委員	宮前区の自主防災組織の方も3年になりますけど、宮前地区と向丘地区の小学校1校ずつ4年生に対して時間をいただいて、自分の命を守るという防災の授業をしています。なかなか大人でも出てこない発想や動きが出てくるので、子どもたちも先ほど宮下委員もおっしゃってましたけど、自分たちも何かやりたいという気持ちがある。だけど大人たちがなかなか話を聞いてくれないという事があるんですね。大人と子どもでやる事が同じと考えてしまうと、どうしても子どもが弱者として考えてしまうけど、学校のことや自分たちの相談に乗ってもらいたい、ストレスを感じたときに発散する場所が欲しいなどの意見もありましたので、子どもの事は子どもに聞け、子どもが一番よく分かっているという事で、もっと子どもの事を拾い上げていかないといけないと思います。これから避難所運

	営会議などでも子どもの事を取り上げてやっていただきたいなと思いました。 もう一つ、障害者・高齢者の話や薬の事もありましたが、地震の時は家具などがぐちゃぐちゃになってしまいます。まずは自分自身が外に出ないといけませんけど、おくすり手帳を持っていきましょうと言ってもどこにあるか分からないという事もあると思うので、そういった時に、例えばどこかにひっかけておく場所を設けておくことで家具がぐちゃぐちゃになっても場所が分かるということ。場所が分かれば落ち着いた時に他の人に取りに行ってもらえるということでお伝えいただければと思います。
事務局	ありがとうございます。それでは議題１は以上とさせていただきます。続きまして議事２「地域包括ケアシステム推進に向けた取組（令和６年７月～１０月）」について事務局から説明させていただきます。
事務局	〔議事２〕地域包括ケアシステム推進に向けた取組（令和６年７月～１０月）について ・資料１－１に基づき地域包括ケアシステム推進に向けた取組について説明 ・資料１－２に基づきチームオレンジ及び土橋カフェについて説明
川田委員	中学生と保育園の交流について、どこの中学生でどういう扱い方をされましたか。
事務局	中学校としては宮前平中学校です。保健委員で昨年度メロコス体操のDVDを作成したいと話があり、作成後に高齢者施設で体操を行いました。今年度は保育園でメロコス体操を行いたいと話があり、近隣の保育園に声をかけたところ３園で実施できることとなりました。学校が終わってからの実施のため午後４時から５時くらいの間に中学生が各保育園に行って一緒に踊ったりしました。
川田委員	中学生がどんどん地域に出てきてくれると良いですね。宮前平中学校でやってくれて、それを先生たちの集まりなどで伝わって取組が広がっていくとよいですね。私達も菅生緑地でやったご近所ピクニックで菅生中学校に声掛けをしたのですが来てもらえなかったもので、とても羨ましいと思いました。
津田副所長	補足ですが、この取組みは区の校長会でお話をしたところ宮前平中学校から是非やりたいという声をいただいた事がきっかけだったと思います。機会があればと思うのですが、学生たちも忙しいので学生たちが興味を持ってくれたところから、少しずつ取組が広がっていけば嬉しいなと思います。
川田委員	校長会でも是非生徒たちの感想などを言っていただけると。生徒のためだと校長先生たちも頑張ってくれると思うので。
事務局	他にありますか。
宮下委員	オンラインでの取組（オンライン あつまれ！ひよこキッズ）を高津区と初めて合同開催という関係で聞いてみたくなったのですが、他の区の地ケア推進の取組を皆さんご存じかと思うんですけど、その取組は結構参考になると思うのですが、参考にして何か取り組まれているのでしょうか。あと今回初めて合同開催という事ですけれど今なのと思います。例えば宮前区でも多摩区寄りの人は多摩区が良く見えてしまうし、高津区寄りの人は高津区の事が良く見えてしまうと思うんです。WEBであればさらにやりやすいと思うので、もう少しお隣さんとうまく連携した取組を考えられたら活動が広がるかなと思いました。

	何か合同開催や参考にした取組事例はありますでしょうか。
事務局	他の区の状況などは他の区に行ったり、共有しているので、機会があればイベント等を一緒にやっていきたいと思っています。
川田委員	高津区にある家電量販店でマルシェをやりたいという事で宮前区にも話があったのですが、宮前区はマルシェをやっている人が多いんです。高津区はあまりなく、ほとんどが宮前区の紹介だったと聞いています。区によって少し温度差があるのではないかと思います。
事務局	連携に向いている事業等あると思いますので、委員のご意見を参考にさせていただいて、やっていきたいと思っています。
事務局	それでは議事3その他について、短い時間ですが、委員の皆様から地域包括システムに関連した取組や活動などのご報告をいただければと思います。今後の予定も含めて1～2分にはなりますが、お話しいただければと思います。よろしくお願いいたします。
本橋委員	地域とのつながりというのは取り組んでいるんですが、地域包括ケアシステムという中での取組はまだやっていないです。
行形委員	区は7つあってそれぞれに医師会がありますが、聖マリアンナ医科大学では聖マリアンナ医科大学医師会という8つ目の医師会ができて、地域包括ケアシステムの中に入っていると思いますので、大学の中でははっきりと活動は見えていないですけど、医師会の中では動いているので、大学は何もしていないわけではないという事を一応補足させていただきます。 医師会は先ほど申し上げたとおり色々な立場の方に関わっていただいて、今後も我々にこうしてほしい等の依頼があれば、医師会としては可能な限りは参加させていただいて協力させていただきたいので、よろしくお願いします。
宮下委員	あまり良い話ではないのですが、宮前区のPTAの協議会も25前後の学校が加入していますけど、任意加入などの観点から市のPTAや区のPTAに学校のPTAが加入するのを辞めるという事が出始めています。働く世代の方たちが自分たちの生活をやりくりするのに手一杯であったり、ボランティア活動になると一歩下がって、なり手がいないなどの実情があります。一方子どもたちは授業ではなく、総合という学びをとおして地域とつながろうとしています。もしかしたら働く保護者世代が地域から取り残されつつある可能性があるなど危惧してまして、その方たちをどう取り込んでいくかという事が大事になってくるのかなと思っています。私の所見なのですが、そのような状況が起きています。
川田委員	コロナの後から地域包括ケアシステムという言葉自体があまりピンときていないように思います。 町内会・自治会は自分たち以外との連携もありますので、それは地域包括ケアシステムだろうなと思っていますし、ご近所ピクニックも多世代、多職種の方たちが集まってみんなでつながってこういう取組なので、これが大きな目玉となっています。
安田委員	地域包括支援センターは区内に7つありますけれども、7包括合同で地域包括ケアシステムに取り組んでいくのは範囲が非常に広いので、地域性もあって難しいところではあると思っています。ビオラ宮崎のお話ししかできないので

	すが、防災を通して地域のつながりを考えていくときに民生委員さんと話す機会があり、民生委員ももちろん頑張るけど地域の自治会との関わりがとても大事だという事だったのですが、自治会でも温度差があることと、自治会未加入の方が増えていて、それが悩ましいことだという話でした。 私たちも地域の方を巻き込んで取り組んでいきたい中で、日・祝日が休みだと会議開催が平日になるので、町内会・自治会長が仕事で地域ケア会議などに参加できない状況が発生しているので、そういったところは課題と感じています。
木村委員	自立支援協議会でも包括的な相談支援など、包括的といったワードが本当によく飛び交っています。ただ言葉だけが飛び交っているのが実情で、いかに実践につなげていくか、具体的な現場の取組にしていくかという事が、まだまだ課題です。協議会の中でも具体的にどうしていくかという事を今まさに話していきまして、地域包括支援センターの方をお呼びして、エリア単位で別れてざっくばらんに意見交換する場を何回か持っています。また高齢者だけでなく、児童分野との交流もワーキングということでやっています。昨年度は宮前区の精神科となかなかつながれていないという事で、顔を突き合わせて現状を話すといったことやっています。また、ワーキングを一年間やってこれで終わらせるという事ではなくて、つながりは継続していきましょうということで、このような小さな取組が育っていくとよいなと話しています。 あと、地域自立支援協議会定例会が12/17に区役所で開催されます。コロナ禍を経て相談支援体制の再編の混乱があって、協議会の在り方について模索しているんですけど、障害者支援福祉事業所を中心に久しぶりに大きな部屋にお呼びして、いままで話してきた地域課題を皆さんどう考えるかという事などについて座談会形式で話そうとしています。 以前のようにまちづくり協議会など色々な所をお呼びしたり、災害をキーワードとして、本日参加されている皆様と協議会がつながるきっかけになれば良いなと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。
江田委員	私からは3点ございます。 1点目は少し地域包括ケアからは離れてしまうのですが、コロナ禍も一段落して、小学3年生のスーパーマーケット探検のようなものと、小学4年生は職場体験などの受け入れがありまして、基本的には全て受け入れて子どもたちの勉強などのため積極的にやらせていただいています。区内にも東急ストアは4店舗があり積極的に受け入れますので、是非よろしくお願いします。 2点目は、ここ最近ご年配の方は多いのですが、異常なほど買っていたり、お金の受け渡しをした、してないなど切実な問題もありまして、怪しいなと思った方は地域包括支援センターに連絡するようにしていますけど、そのような事が日々続いている状況ですので、是非包括と警察がメインにはなりますけど地域連携を強化していきたいと感じています。 3点目に、区役所から体操教室やご案内などのパンフレットを置かせていただいていますけど、これが非常に好評で大体1日10～20部なくなっていく状況です。私は店長なので宮前区以外の地域にも行くのですが、このような地域の媒体に興味があるお客様が多い店舗は、私は初めてなんですね。今まで葛飾

	区や横浜市、大田区なども配属されていましたが、地域の事について非常に関心があるエリアだなと感じています。空きテナントもありますし、駅前で集客のあるところですので、使いたいという方がいれば無償でお貸ししますので、お声かけいただければと思います。
大和田所長	本日は長時間ありがとうございました。地域の関係機関・団体の代表である委員の皆様にご意見や議論をいただきまして、私達としても非常に参考になりました。地ケアの概念がだんだん薄くなっているなどと川田委員からもお話がありましたが、コロナという非常に大きな出来事の中で人と人とのつながりが薄れてきているとか、高齢化による人手不足などで、町内会自治会・民生委員・PTAに手が回らないなどという状況にある昨今でございます。行形委員からのご報告・ご議論の中で、地ケアと防災が表裏一体、むしろ防災がコアなのではないかというお話を伺いましたけれども、地域福祉実態調査でも、人との関わりをしたくないという人が徐々に増えており危機感を持っている反面、地域を意識するという事で一番大きい事項が防災と、高齢者の見守りが2大関心事という結果が出ていますので、そこを契機として取組を進めていくことが大事だと思っています。 この地域包括ケアシステムネットワーク会議で皆様のご意見から様々なものを取り込ませていただいて、「地域の必要な情報が届いていない」というご指摘から、今年度は地ケア啓発としてイベントに出かけて行って広報して、地ケアを知っていただきたいということはもちろんですが、地域の皆様に、こういう事業があるとか相談機関があるということ、人が集まるところで広報することになりました。また東急ストアさんにも先ほどご報告いただいたように、広報にご協力いただき本当にありがたいと思っています。今後も皆様のご意見を聞きつつ、取り組んでまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
事務局	それでは、次回の予定を決めさせていただきたいと思います。次回は2月14日金曜日から、21日の金曜日で開催させていただきたいと考えています。また、委員からの活動紹介としまして、川田委員にお願いしてよいかということ、また木村委員からも少しお話ししたいと事前に伺っていますがいかがですか。
木村委員	地域自立支援協議会の中には色々な事業所が所属していますが、私が所属している法人が活動している地域活動支援センターが2か所ありまして、区内で障害がある方の居場所として活動しています。なかなか最近是人が来ず、どうやって知っていただくか苦慮してまして、障害をお持ちの方やその家族、その周りの方々に広く知っていただいて、是非、足を運んでいただきたいと考えています。この会議は色々な団体等の方がいらっしゃいますので、パンフレットを配布させていただいて、お時間をいただけるようであれば運営している職員も説明に伺いたいということで事務局に相談させていただいておりました。よろしく願いいたします。
事務局	それでは、委員からの活動紹介につきましては川田委員と木村委員ということではよろしいでしょうか。日程につきましては、皆さん両日問題ないという事であれば事務局で調整させていただこうと思いますが、いかがでしょうか。
木村委員	できれば14日は避けていただきたいのですが、皆様のご都合が難しけれ

	ば大丈夫です。
事務局	それでは21日を候補日とさせていただきますが、また改めてお知らせさせていただきます。
閉会	事務局から閉会の挨拶